



# 20年で88名の研究者が支援した次世代向け教育プログラム 「地震火山こどもサマースクール」 2019年は丹後半島で開催

第20回地震火山こどもサマースクール実行委員会【(公社) 日本地震学会、(特非) 日本火山学会  
(一社) 日本地質学会、(特非) 地球デザインスクール】

## サマースクールの根本理念

- 1) 研究最前線の専門家が子どもの視点にまで下り、地震・火山現象のしくみ・本質を直接語る
- 2) 災害だけでなく、災害と不可分の関係にある自然の恵みを伝える

## 当初の狙いをこえた成果

- 1) 子どもたちの自由な発想に専門家が教えられた
- 2) 自然の災害と恵みの理解を深めることが地元愛に繋がった
- 3) サマースクールのプログラムを地域活動に生かした開催地もできた
- 4) 専門家と接することがキャリア教育に繋がった
- 5) 卒業生の中にはスタッフとして参加する者もでてきた(人材発掘)

## 20年続けて

もぐらやなまず博士  
719人を輩出。今年  
は「丹後学ジオマスタ  
ー」が誕生



ナイスな質問や  
コメントでカードGET



日程	プログラム	開催地	参加者/スタッフ
1999年8月20-21日	第1回 「丹那断層のひみつ」	静岡県函南町など	22/19
2000年8月26-27日	第2回 「有珠山ウォッチング」	北海道壮瞥町、虻田町など	59/21
2001年7月20-22日	第3回 2001地震火山世界こどもサミット	東京都・大島町、三原山など	163/63
2003年8月2-3日	第4回 「活火山富士のひみつ」	静岡県富士市、富士山など	25/34
2004年8月7-8日	第5回 「Mt. Rokkoのナゾ」	神戸市、六甲山など	21/51
2005年8月19-20日	第6回 「霧島火山のふしぎ」	宮崎県都城市、霧島など	23/22
2006年8月12-13日	第7回 「湘南ひつつかプレートサイド物語」	神奈川県平塚市、松田町など	31/43
2007年8月4-5日	第8回 「箱根ひみつたんけんクラブ」	神奈川県箱根町、小田原市	30/43
2008年8月23-24日	第9回 「都(みやこ)をつつた盆地のなぞ」	京都市	25/55
2009年8月8-9日	第10回 「火山が作った維新のまち・萩の景色のひみつ」	山口県萩市	37/44
2009年11月28-29日	— 地震火山こどもフォーラム	東京都	65
2010年8月7-8日	第11回 「室戸ジオパークを610倍楽しむ方法」	高知県室戸市	29/44
2011年8月6-7日	第12回 「磐梯山のお宝がし」	福島県会津・磐梯山	21/47
2012年8月18-19日	第13回 「東と西に引き裂かれた大地のナゾ」	新潟県糸魚川市	33/50
2013年8月3-4日	第14回 「南から来た大地のものがたり」	静岡県伊豆半島	33/45
2014年8月2-3日	第15回 「島原半島に隠された九州のヒミツ」	長崎県島原半島	21/38
2015年8月2-3日	第16回 「まくれあがった大地と中央構造線のナゾ」	長野県伊那市など	26/43
2016年8月20-21日	第17回 「南紀熊野の海と山のヒミツ」	和歌山県串本町など	38/60
2017年8月9-10日	第18回 「熊本地震で見つけた大地のヒミツ」	熊本県益城町	28/53
2018年8月7日	第19回 「火山島 伊豆大島のヒミツ」	東京都・大島町、三原山など	34/55
2019年8月10-11日	第20回 「丹後半島のヒミツ」	京都府宮津市、京丹後市	20/31

## 第20回地震火山こどもサマースクール in TANGO「丹後半島のヒミツ」で、20人の丹後学ジオマスターが誕生

2019年8月10日(土)～8月11日(日)  
参加者: 20名(小6, 中5, 高9)、講師・スタッフ31名  
東大地震研究所の加納靖之准教授を実行委員長に、京都府の日本海側にある丹後半島を舞台に、地元の小中高生が、地震や火山、地質の専門家らと共に丹後半島の成り立ちのナゾ解きに挑みました。1日目は、天橋立を海から眺めるための観光船に乗って船上から「断層」を探し、いまは火山とまったく関係のないようにみえる半島の海岸に残された火山の岩を観察。マグマが固まった岩が崩れた砂で、天橋立ができてきたことを実験で確認しました。半島の内陸側には、郷村断層や山田断層があり、1927年にその断層が動いて北丹後地震(M7.3)が発生し、3千人近い犠牲者を出したことも深く知り、断層によって四角い半島ができたことを見出しました。最後には、丹後半島に住む楽しみと誇りを持って暮らす方法を見出したとして「丹後学ジオマスター」の認定証が授与されました。

## 大学・研究所(職業研究者)参加講師 (合計88人=複数回参加で延べ194人)

京大(12)、名大(6)、東大(7)、産総研(6)、日大(4)、熊本大(3)、静岡大(3)、防災科研(3)、九大(2)、高知大(2)、富士常葉大(2)、北大(2)、山口大(2)、神奈川県博(2)、京都教育大(2)、茨城大(1)、慶応大(1)、早大(1)、千葉大(1)、電中研(1)、東北大(1)、奈良教育大(1)、新潟大(1)、フォッサマグナミュージアム(1)、福島県博(1)、福島大(1)、妙高火山研(1)、温地研(1)、広島大(1)、佐賀大(1)、砂防・地すべり(1)、桜美林大(1)、鹿児島大(1)、首都大(1)、秋田大(1)、神戸大(1)、鳥取大(1)、東京海洋大(1)、北翔大(1)、立命館大(1)、和歌山大(1)、阿蘇火山博(1)、アジア航測(1)、兵庫県立大(1)、国立科学博物館(1)、京都造形芸術大学(1)



地震や火山は、戦争や治安の問題とは意味が違う。自然によって災害が起こるのだから、小手先だけのHow toではなく、自然のことを恵みも含めて根底から理解することがベースにならない。(静大 小山)

## 2日間で与えられた「ナゾ」を解き明かせ!

小・中・高・スタッフ(専門家外の安全管理員)の縦割りでグループになり取り組むフィールドワーク、実験、夜のお話とてんこ盛りのプログラムには「ナゾ」のこたえのヒントが隠されている



## 専門家が徹夜で考えたアイデア実験 ドキドキ ワクワク あれ? 大人の方が楽しんでない?!



指で四角の丹後半島ポーズで記念撮影



行って 触って 感じて  
いつも見えていた景色が違って見えてきた?!



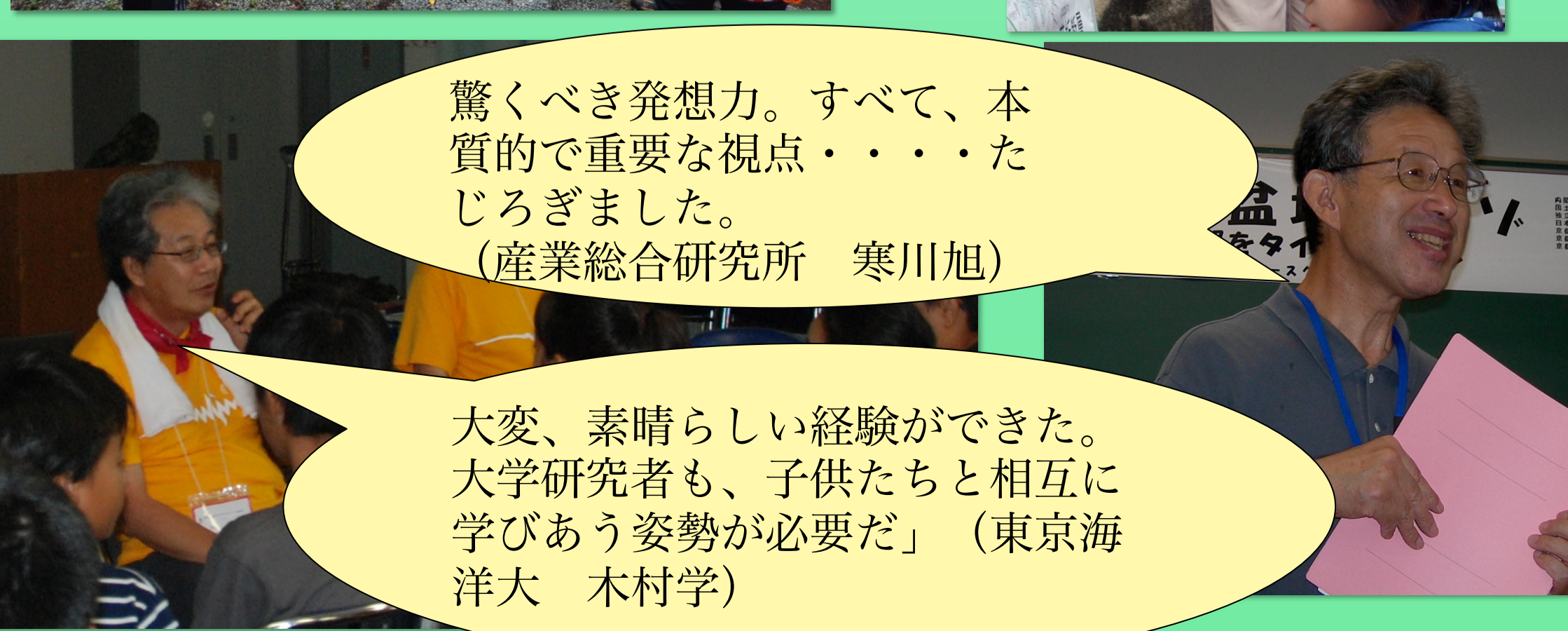
大人は口出し禁止!!  
子どもたちは発想力、想像力、  
考える力を大いに発揮する

その時、子どもたちが残してくれたことばに「一人の百人力より百人の一人力」というのがあります。身の回りの自然について恵みも含めて学ぶことは、人間を謙虚にし、自然への畏敬の念が生まれ、知らず知らずのうちに防災への基本姿勢が備わるということを実感した瞬間でした。(名古屋大 武村)



## こどもフォーラムでナゾの発表

自由なスタイルでの成果発表では、大人たち期待を上回る発表の連続。今年も、日本海の形成のナゾは「これから僕が解明します」と心強い発言があり、丹後半島の海側に「あったらいいな断層」が命名されました。



驚くべき発想力。すべて、本質的で重要な視点・・・たじろぎました。  
(産総研 寒川旭)

大変、素晴らしい経験ができた。大学研究者も、子供たちと相互に学びあう姿勢が必要だ。(東京海洋大 木村学)

地球の営みがもたらす大きな恵み。そして避けることのできない自然災害。これらを実際の自然を目の前に、最高の講師の方々から教えて頂けるのがサマースクールの魅力。(卒業生)

地球の営みがもたらす大きな恵み。そして避けることのできない自然災害。これらを実際の自然を目の前に、最高の講師の方々から教えて頂けるのがサマースクールの魅力。(卒業生)

地球科学は、私たちがこの星で幸せに暮らしていくための大切な学問だと知りました。

20年間続けて 子どもたちから出てきた言葉は  
サマースクールの財産!!

益城町は火山や地震によっていろいろな被害を受けましたが、同時に多くの自然の恩恵を受けていることに気がつきました